



No. 131 2021.10.21

明石市コミュニティ・スクールだより
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクスク

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課



コミコミスクスク TwitterQR

“ブックスポット Meeting #1” が開催されました



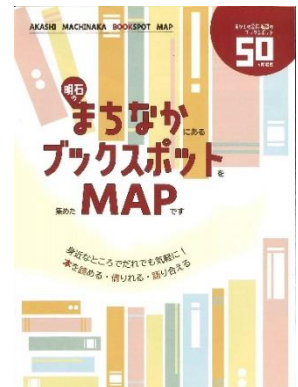
10月15日（金）にウイズあかしで「ブックスポット Meeting #1」が開催されました。今年の4月には明石コミュニティ創造協会さんが制作「まちなかブックスポット MAP」が発行されました。まさしく明石のまちなかにあるブックスポットを集めたMAPです。そんな公共・私設のブックスポットが明石には50か所あります。そんなブックスポットの運営面でのノウハウや情報交換を行う場として今回の「ブックスポット Meeting #1」が

開かれました。

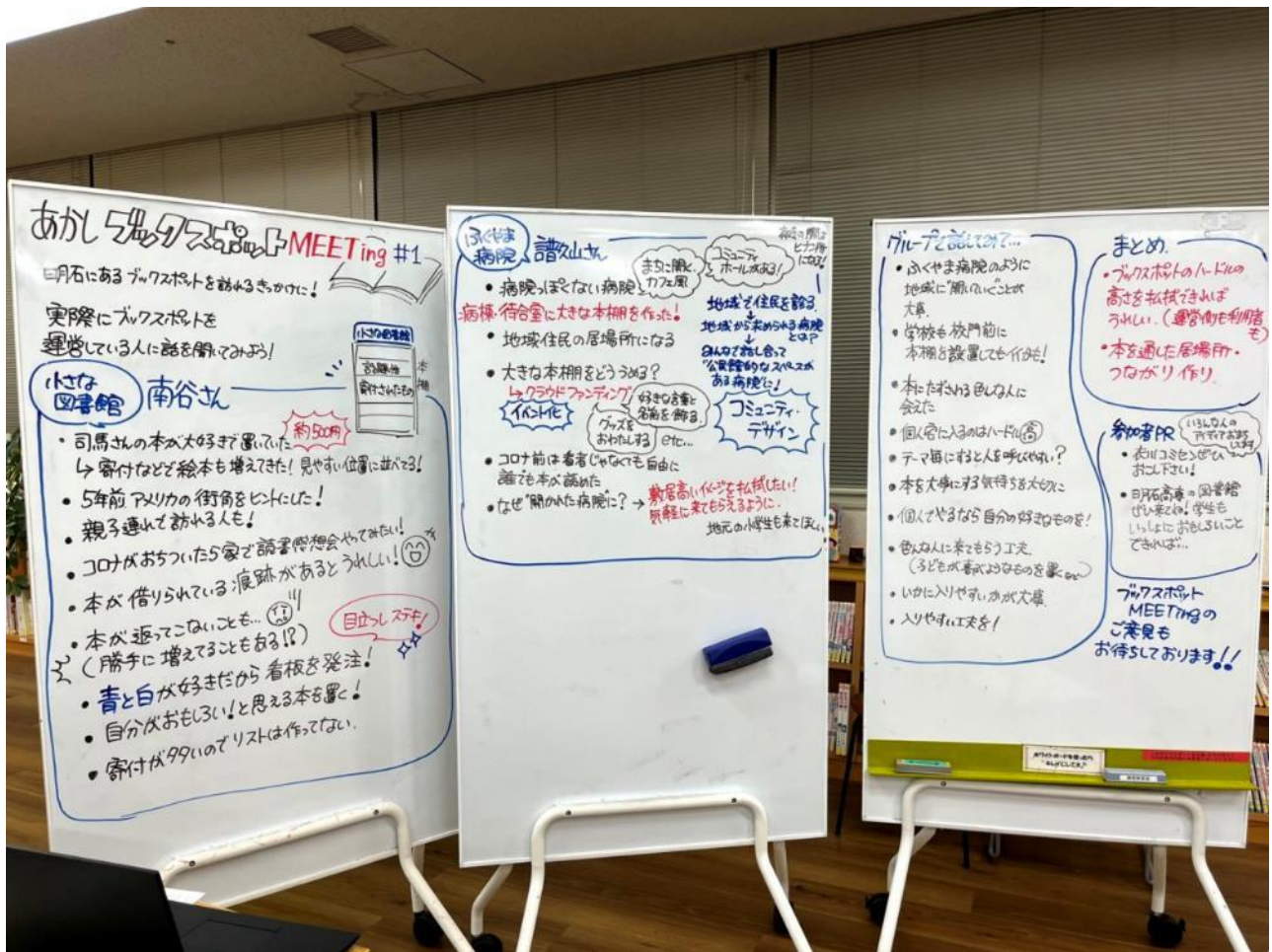
当日はブックスポット紹介として「小さな図書館」を自宅で開かれている南谷さん、病院を移転するにあたり病院内に本棚を設置し開放されている「ふくやま病院」の譜久山さんのお二人からブックスポットを運営するきっかけや思い等をお聞きすることができました。

南谷さんが開かれているブックスポットは玄関先に本棚をおきブックスポットをスタートされたようです。台風で本棚が倒れ風よけをつくったり、本が返ってこないこともあるが、逆にいつの間にか本が増えていることもあるといったエピソードを交えながら、本が好きだから本を通じて人と交流しながらつながっていきたいというブックスポットの運営をおこなう思いをお聞きすることができました。コロナが落ち着いたら本の感想を語り合う読書会的なものを開催したいという夢などをお聞きするなかで、本をとおして地域の色々な世代が交流し、つながっていく地域づくりにつながっていくんだと感じました。

譜久山さんからは病院が西明石にあった時にもげた箱に色を塗って本を置いていたが、移転し新病院を建設するにあたり、どんな病院をつくりたいかと病院内で熟議、熟議した結果をもって移転先の地域の方と熟議するといった中で、“「また来てね」といえる病院”というコンセプトが生まれてきたそうです。そんなお話の中でなによりも刺激を受けたのは「病院を開く」という言葉でした。「敷居が高い病院から・・・」といったお話を聞きながら、散歩のついでに病院にやってきておいてある本を手にとったり、お医者さんや看護師さんと気軽に言葉を交わすことができる環境を整えることによって、何かあってから病院に行くのではなく、普段から健康面に気をつける拠点としての病院をつくれようとしておられるんだと解釈しました。病院の存在意味を考え、コンセプトを熟議の中で創っていくとい



う流れは、まさしくコミュニティ・スクールの目指す方向性と重なり、地域の生涯学習・人の交流の拠点としての地域にねざした学校づくりをすすめるうえでも大いに参考にしていかなければいけないとパワーをいただきました。



「ブックスポット Meeting #1」に参加して、いろいろな立場の人で初対面だけど…といった不安がありました。対面でのリアルとオンラインのハイブリッド、そして思考をたすけてくれるホワイトボードという明石コミュニティ創造協会さんの進行のおかげで刺激的な時間を過ごさせていただきました。改めて「社会に開かれた学校」づくりにとってこうしたいろいろな立場の人が集まって、様々な視点から考えを出し合っていくことが大切なんだと感じました。未来を生きる子どもたちに必要な資質・能力が身につく環境をつくっていくためにも、我々大人が納得解を創り出していく過程を体験していくことが必要なんだと感じました。

対話の見える化

明石コミュニティ創造協会さん主催のこうした研修会に参加するたびに、ホワイトボードの記録の“楽しさ”に感服させられます。対話が終わった後に見ると対話のストーリーが見えてきます。対話の途中では、自分の考えをまとめたり、他の参加者の考えを見直したりと思考の助けをしてくれます。

対話を“見える化”できる記録者と思考を刺激するファシリテーターの存在がいい対話には必要ということ肝に銘じて、ファシリテーターや記録を担当する指導主事は「みんなであらう」で対話を深める修行を重ねている最中です。みなさんも「みんなであらう」に参加して一緒に修行を楽しんでみるのはいかがでしょうか。（文責：北本）